

第 16 回 鋼構造実験見学会

「座屈補剛効果の確認と必要補剛力について -座屈波形と座屈荷重-

主催：日本建築学会中国支部

共催：日本建築構造技術者協会，協同組合広島県鉄構工業会

会場：広島工業大学 新 3 号館実験棟（広島市佐伯区三宅 2-1-1）

講師：山西 央朗（広島工業大学）

日時：3 月 9 日（土） 13:00～16:00

定員・会費：50 名・無料

対象：本会・協賛団体会員，建築技術者，大学院生，大学生

問合せ・申込先：広島工業大学 工学部 建築工学科

山西 央朗 t.yamanishi.ev@cc.it-hiroshima.ac.jp

内容要約：

鋼構造建築物においては、曲げ座屈および横座屈に代表される個材の座屈現象により劣化勾配が現われ、部材耐力の低下と変形集中が発生する可能性がある。このため、座屈現象の発生を抑制することが耐震安全性上重要となる。一般に、個材の座屈現象が発生することが懸念される場合、断面性能を増大するよりも座屈波形の形成を矯正することで発現強度の向上が図られる。特に、横座屈については補剛を施す設計・施工が多いが、その実挙動を目にする機会は極少ない。

本実験見学会では、実験を通して座屈補剛による効果を理解していただくと共に、一般に深く追求することの少ない補剛力も計測して座屈現象を深く理解していただき、今後の鋼構造物の構造設計や製作に活用していただくことを期待している。

